

経営戦略の着実な実行により、上半期純利益は132億円を計上

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

10月31日、待望の羽田空港からの国際線定期便が就航しました。羽田空港発着の当社国際線は9路線となり、羽田空港での国内線と国際線との接続も大変便利になりました。今後、羽田・成田の首都圏両空港の特性を生かしたネットワークの充実に努めてまいります。

さて、第2四半期(累計)は、想定を上回る円高、株安が続きましたが、景気の回復基調による堅調な需要と計画を上回るコスト削減効果等により、132億円の四半期純利益(6ヵ月累計)を計上することができました。

国内線旅客事業は、夏季期間中の旅客需要等に支えられ、旅客数は前年同期比103.7%、営業収入は前年同期より81億円の増収となりました。国際線旅客事業は、ビジネス・旅行需要ともに大きく回復し、利用率は79.2%(前年同期より6.8ポイント増)にアップし、前年同期より408億円の増収となりました。国際線貨物事業も順調な需要回復により、貨物輸送重量が前年同期比145.6%、営業収入は前年同期より180億円の増収となりました。各事業における費用面でも、当初計画を上回る費用削減を達成することができました。

ところで、過去の米国における主要航空会社の国際線旅客・貨物運賃に係る価格調整に関し、米国司法省による捜査に協力してまいりましたが、今般、

関係当局等との合意・和解の結果、特別損失を計上することになりました。株主の皆様には、ご心配、ご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。本件に関する関係者の処分に加え、社内管理体制の徹底と従業員教育の強化を図る所存です。

今後の経営環境は、国内外の経済動向に不透明感があり、楽観視できない状況が続きますが、競争力強化と需要喚起に努めることで、通期業績見通しを営業利益700億円、経常利益370億円、当期純利益60億円に上方修正しました。

外国航空会社の参入や新幹線の延伸など、ますます競争環境は激化してまいります。経営計画の確実な遂行と、安全性、サービス、品質の維持向上を柱に、2011年3月期の黒字化達成に向け、ANAグループ全役職員が一つになり、この難局を乗り越えてまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2010年12月

代表取締役社長 伊東 信一郎